

# 下町河川 Tomorrow

東京都の江東内部河川流域連絡会の情報紙（会議録）

平成29年3月8日（水）

## 第58回（第9期第2回）江東内部河川流域連絡会を開催



### 現場視察の様子

- ・「第58回（第9期第2回）江東内部河川流域連絡会」を、午後1時15分から午後5時の約4時間、現場視察を行いました。
- ・都民委員13名、行政委員6名が参加しました。  
⇒ 名簿は6ページ
- ・視察箇所は、江東区船番所資料館、小名木川、横十間川、扇橋閘門です。

## 現場視察

### 現地視察行程

江東区船番所資料館、小名木川（旧護岸）、横十間川（クローバー橋にて見学）、扇橋閘門を、バスで移動しながら、現地視察を行いました。

都営新宿線東大島駅大島口（集合）  
↓  
江東区中川船番所資料館 [江東内部河川の歴史について]  
↓  
小名木川 [旧護岸]  
↓  
横十間川（クローバー橋） [今後の整備河川]  
↓  
扇橋閘門・小名木川・大横川 [施設見学、今後の河川整備]  
↓  
JR 錦糸町駅（解散）



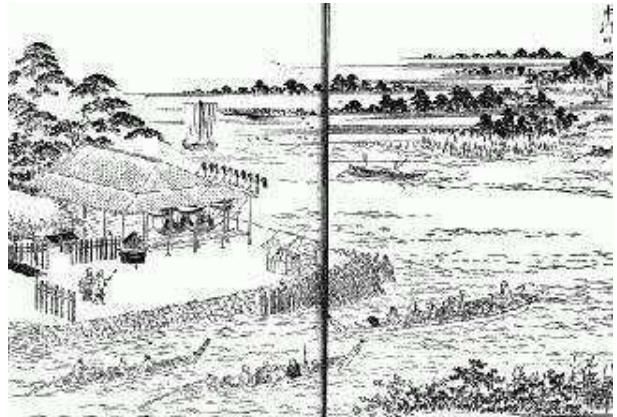
## 2. 現地視察箇所

### (1) 江東区船番所資料館（講演と見学）

- ・江東区船番所資料館では、学芸員の久染氏から、「江東内部河川の歴史と文化」と題して、ご講演がありました。
- ・主なご講演内容は、①江戸の成立と河川、②江東の川・江戸初期、③木場の深川移転と掘割、④江東の川・明暦の大火、⑤木場再移転と川の延伸、⑥深川南部の川、⑦城東地域の川についてでした。
- ・上記講演の後、資料館内部をご案内いただき、見学しました。



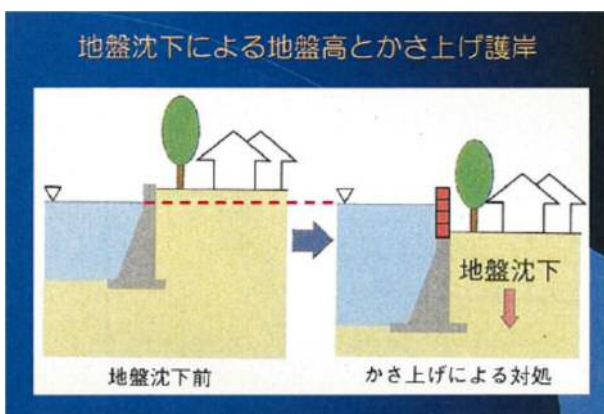
中川船番所のジオラマ



「中川口」（中川船番所）、江戸名所図会

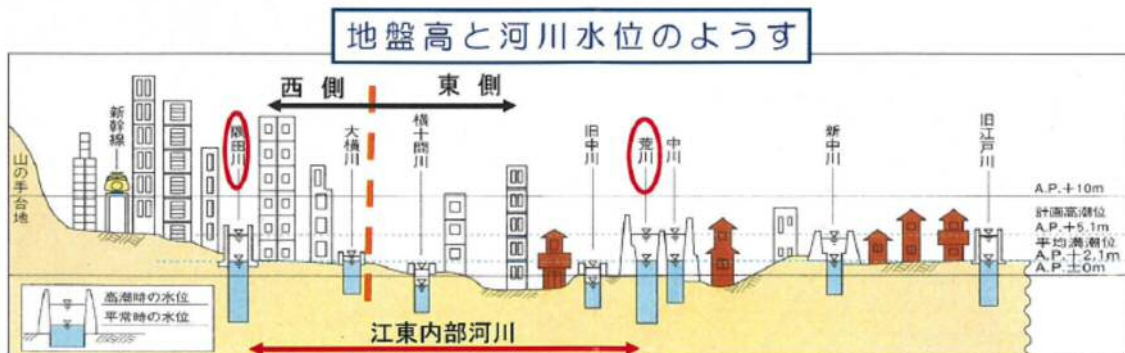
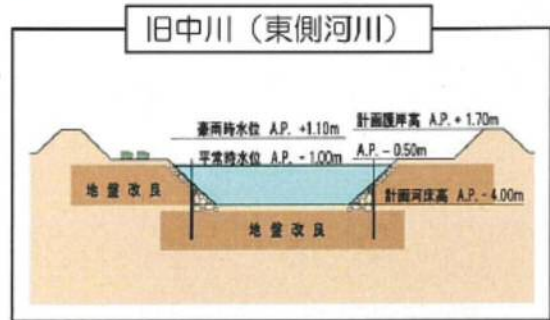
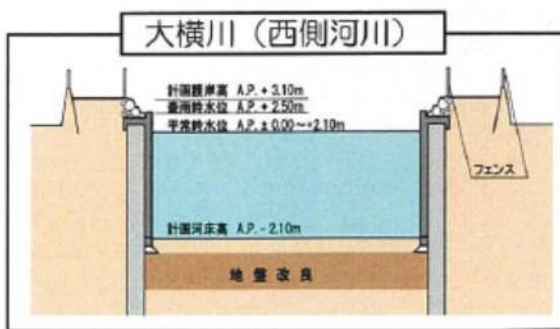
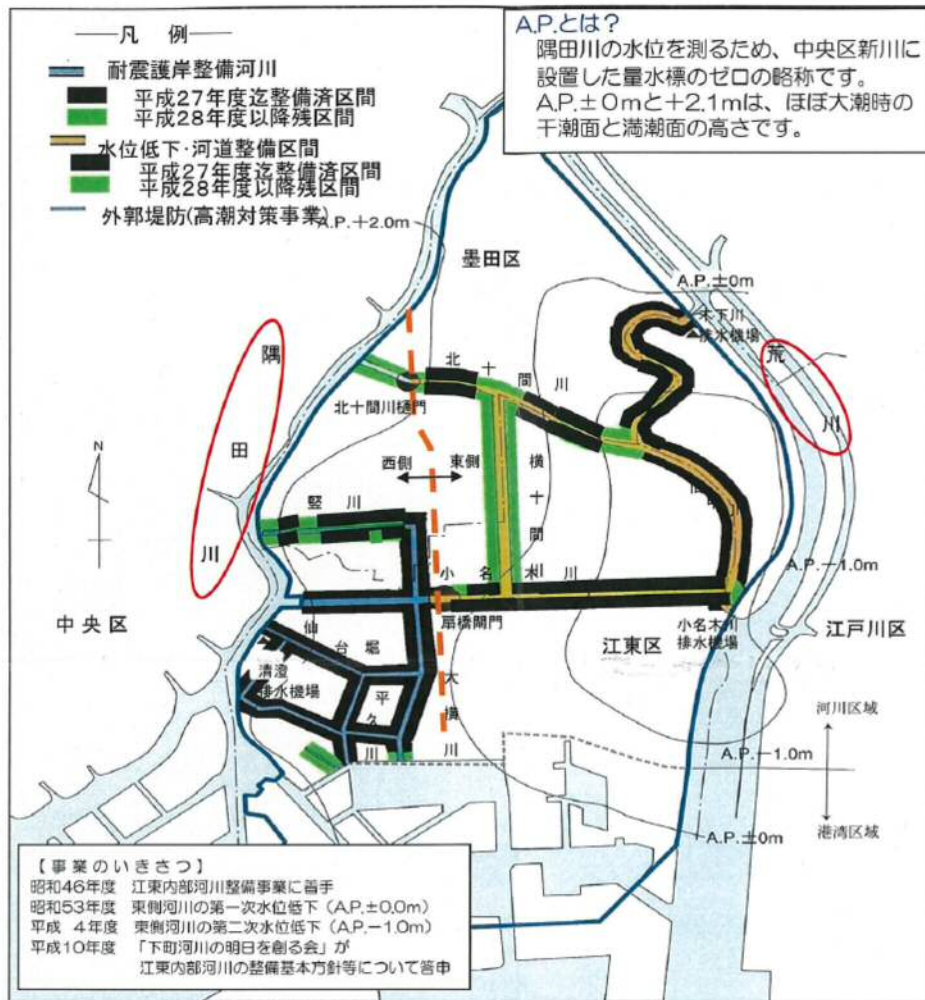
### (2) 小名木川（旧護岸）

- ・小名木川に残る旧護岸から、地盤沈下による護岸の嵩上げの状況について、説明がありました。
- ・江東デルタを縦横に走る内部河川は、地盤沈下に伴い度重なる護岸のかさ上げを行った結果、大地震に対し極めて危険な状態になっていました。
- ・このため、昭和46年度より、「江東内部河川整備事業」に着手しました。





- 地震水害から江東デルタを守るために、概ね地域を東西に二分して、地盤が特に低い東側地域の河川は、平常水位を低下して河道整備を行う方式を行い、比較的地盤が高い西側地域の河川は、耐震護岸で整備を進めています。



### (3) 横十間川（今後の整備河川）

- ・横十間川は、全川が整備予定河川となっています。現在、護岸と管理用通路のための基盤整備が進められています。
- ・基盤整備として、耐震護岸、河床改良等を行い、修景整備として、遊歩道、植栽、階段・スロープ等の設置を行います。



### (4) 扇橋閘門（施設の見学）

- ・扇橋閘門では、江東内部の東西で水位が異なる河川を通航可能にした「ミニパナマ運河」と言える施設の仕組みについて説明がありました。
- ・また、8月から始まる耐震補強工事について説明がありました。工事は、次の3種類が行われます。
  - ①土木工事 : 水門躯体補強、閘室補強
  - ②設備工事 : ステンレス製門扉への取替、開閉装置取替、上屋建替
  - ③建築工事 : 耐震・耐水化確保のための建替、発電機の耐水化
- ・上記のため、扇橋閘門は約1.5年間船舶の通航ができなくなります。
- ・小名木川と大横川の耐震化工事について説明しました。
- ・操作室では、実際に船が通過する際の操作状況と、閘門内（閘室）の水面の高さの変化を見学しました。



## 流域連絡会の今後の予定

今回は、来年度6月頃を予定しています。